

新春に寄せて

OMUP 4年目を迎えて

OMUPが発足して、はや4年。年頭の挨拶として、常務理事の1人、三田朝義先生に今年の抱負を語っていただきました。

大阪公立大学共同出版会
常務理事 三田 朝義
(大阪女子大学教授)



明けましておめでとうございます。OMUP会員の皆様におかれましては、お元気でご活躍のことと拝察申し上げます。府下の5つの公立大学の先生方によって2001年に創立された我がOMUPも早いもので、今年で4年目を迎えることになりました。会員数も微増ではありますが、増加しつつあります。この間、「良質の書物をどこよりも安く・迅速に」をモットーに着実に出版を重ね、昨年度は合計4冊を上梓しました。またその都度、出版の記念を兼ねて著者を囲んだサロン(知の交流)を開催いたしました。また現在も、次の発刊に向けた作業が順調に進んでいます。この間、会員の皆様OMUPへの絶大なるご協力に感謝いたします。常務理事会では、出版予定の方々の

ご要望にできるだけ応えるよう、また会員の皆様のご要望をもとに、主に企画・編集を中心とした会議を行っています。開かれた常務理事会として、これまで以上の会員の皆様からのご意見をお待ちしております。ご存じのように、来年4月には府立大学、女子大学、看護大学の3大学は統合され、公立大学法人として新たな出発をすることになります。このような大学を取り巻く厳しい状況下では、これまで以上に学術的教育・研究の最高機関である大学のステータスが問われることになるでしょう。この中においてOMUPの果たす役割はさらに大きくなるでしょう。OMUPの基盤の確立と更なる社会貢献のために、今後とも会員の皆様の一層のご支援とご協力をお願いいたします。



今回から、会員の声をお伝えするコーナー「リレートーク」が始まります。テーマは何でもOKです。皆様の投稿をお待ちしております。第1回は理事駿河氏の声からスタートです。どうぞ期待!

明けましておめでとうございます

大阪公立大学共同出版会
理事 駿河 輝和
(大阪府立大学教授)



OMUPももうすぐ創設以来3年が経つことになり、出版も徐々に増えてきたようで喜ばしい限りです。昨年は初めての社会科学分野の本も出版され、出版の分野にも広がりが見られるようになってきました。私の属する経済学の分野は、従来は業績に占める本のウエイトが高く、「単行本を出版して博士号」「マル合(博士課程の学生を指導できるレベルと判定されること)には単行本が必要」ということが言われていました。しかし、徐々に英語による国際レフェリー雑誌のウエイトが高くなり、日本語によるレフェリー雑誌も増えて、レフェリー雑誌と本による2本立ての評価基準となっています。日経図書文化賞を初めとして各種の賞は、一般的に本に与えられることが多く、理系に比べると本の価値がまだかなり高い状況です。本の出版の数が多いため本に対して何らかの価値基準が必要となり、どこから出版社から発行されているかということが一つの判断基準となっています。

出版社にある種のランク付けが、教科書、専門書といったジャンルや研究分野別に大雑把に行われている状態です。これがないと、購入する本の選別にも多大な労力を使うこととなります。したがって、ある程度名前の売れた研究者は、OMUPのような新しい大学出版会でも自費を出して出版するということが、ありえないこととなります。しかし、新しい大学の出版会も何らかの隙間を埋める役割ができるはずで、大学出版会でも出版するのに適した本は、若手の研究者が提出した博士論文の出版、特殊な分野の研究で一般の出版社が出してくれないような分野の本、自分の授業用のテキストといったものではないかと考えています。どうみても苦労ばかり背負い込むような大学出版会の立ち上げにかかる足立先生の情熱に感激をして出版会の理事を引き受けました。しかし、なかなか貢献をすることができないまま、4月には他大学に移ることになり残念に思っています。

OMUPニュースレター

大阪公立大学共同出版会
〒599-8531堺市学園町1-1
TEL(072)252-1161 FAX54-9408
編込先 UFJ銀行中もず支店
普通 3976510
大阪公立大学共同出版会
編集・発行 W. WORKS

第2弾! 市大から待望の出版!

OMUP独自企画シリーズの「OMUPユニヴァーシラズ」に、待望の第2弾が昨年12月に出版されました。大阪府立大学地球学教室の先生方14名からの熱いメッセージで綴られた「OMUPユニヴァーシラズ②地球学へのいざない」です。地球学という話題性もあり、発売以来、全国の書店から注文が届いており、今後の展開が楽しみです。執筆紹介では似顔絵も飛び出すなど、

楽しみがもう一つ加わっています。OMUPユニヴァーシラズは、OMUP会員の教授陣が、大学生・高校生あるいは社会人に、専門分野の研究、人生観、教育論を語るシリーズです。一昨年5月、大阪府立大学農学部、先端科学研究所の教授10名による「OMUPユニヴァーシラズ① 農学生命科学へのいざない」が誕生した後、それにくらび第2弾が待望されました。ユニヴァーシラズは、これから学問の世界に足を踏み出す学問の面白さを伝えることができ

「OMUP会員が新入生にすすめる本」の原稿募集! 昨春、「OMUP会員が新入生にすすめる本」のパンフレットを3大学の生協と共同で刊行しましたが、図書にこめられた先生方のユニークなメッセージが楽しく好評だったこともあり、今年も引き続き発行したいと考えています。

初学者のための入門書として、これからさまざまな分野から出版されることを期待しています。OMUPユニヴァーシラズがさらに増え、日が来るのが楽しみです。会員の皆様からの出版依頼を、切にお待ちしております! 学部、学科程度のもたまりで出版をお考えの方、どうぞお気軽にご相談ください。お問い合わせは理事、常務理事等まで。

本パンフレットは、OMUPの目的の一つ、学生への図書普及という課題への取り組みの一例です。昨年は各生協ですすめる本として、出版促進に寄与する企画として、発行しました。読書人の先輩として、生たちへ図書館を通じてメッセージを伝えてみませんか。昨年、執筆された方々の皆様の是非、原稿お待ちしております。

この投稿いただける方は、①私の最近の読書から印象に残っている本の項目を投書用紙に記入後、②この項目を送信ください。投書用紙はホームページからダウンロードしていただくか、メールにて投書用紙を送付を依頼してください。なお、紙ドレスは欄外をご覧ください。



作者(絵・文): 上平真一
B5横判・36頁・上製本
定価1,200円(本体1,143円)

星湖舎
〒542-0082
大阪市中央区島之内1-15-30 大一ビル内
TEL06-6245-5974
FAX06-6772-2392

がんばりやのおばさんとあかいちいさなはなのおはなし
掃除がお仕事のおばさんは、耳が聞こえないのでいつも手話でお話をします。ある日職場の片隅で赤い小さな花を見つけました。毎日毎日手話で話をしていくと、いつしか心が通じ合うようになりました。おばさんが病気で休んだとき、素敵な奇跡が起こりました。

手話の幼児教育にも最適。子どもから大人まで楽しみながら手話が覚えられます。



編集室の窓辺から



穏やかな日とで迎えた新年も、1月後半からは身にこたえる寒さ。その中でも我がOMUPの業務は次々とやってくる。楽しいことも、時には気乗りのしないことも。しかし思いはOMUPの新たな展開。幸いにも昨年は初めての科学研究費助成出版を日共同で手掛け、内外から好評を博しているとのこと、ご同慶の出版も実現した。とりわけ、OMUPユニヴァーシ리즈② 地球学へ

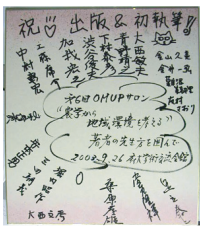
のいざないを大阪市立大学の先生方のご尽力で発刊することができました。学問に志す若い人たちへのメッセージがこれに続くことを願っています。(足立)

『OMUPユニヴァーシ리즈② 地球学へのいざない』が出版されたことを受け、第8回OMUPサロンを3月に市大学術情報総合センター1階「カフェテリア」で開催予定です。執筆された先生方の楽しいお話を聴くチャンスです。多くの皆様のご参加をお待ちしております。詳細は後日お知らせいたしますのでご期待下さい。

第6回OMUPサロン

第6回OMUPサロンは、昨年9月26日午後5時より府大学術交流会館にて開催された。今回は、9月に出版された大阪府立大学農学部地域環境学科の「地域環境を考える会」のメンバー10名による著書『農学から地域環境を考える』の出版にまつわるエピソードを聞こうと集まった。本著の執筆に当たった多くは、新進気鋭の若手研究者。サロンは、学術交流会館という場所のせいもあってか、さながら若手研究者の発表会といった雰囲気であったが、次々発表される話は、若い研究者たちの研究に対する熱い思いがまっすぐ伝わるものであった。

いろいろなエピソードを伺った後、場所を懇親会場に移し交流を図った。発表会での熱気がそのまま懇親会場に持ち込まれ、いつも以上に新鮮で若い熱気に包まれたサロンとなった。



第7回OMUPサロン

第7回OMUPサロンは、クリスマスも間近の昨年12月12日午後6時より、泉北高速鉄道「深井駅」に程近いフレンチレストラン「ドゥースドゥース」で開催された。フランス語の本ということで選んだお店だったが、オーナーの気さくな人柄とオーガニック野菜をふんだんに使ったお料理や手づくりパンやおいしいワインに囲まれ大いに舌鼓をうった。もちろん、これは、本日の主役である大阪女子大学人文社会学部助教授村田京子氏と著書 *Les Metamorphoses du pacte diabolique dans l'œuvre de Balzac* 『バルザックの作品における「悪魔との契約」の変貌』を堪能する小道具に過ぎず、「悪魔との契約」という刺激的な話に参加者一同興味を尽きることはなかった。パリ留学時代の話やパリ大での博士論文審査の様子なども伺うことができ、パリの雰囲気を堪能したサロンとなった。



新刊本紹介

『OMUPユニヴァーシ리즈② 地球学へのいざない』
大阪市立大学地球学教室の教授14名著

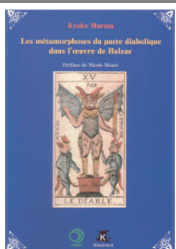


知的好奇心への新たな旅立ち
教員というのはい、自分が知っていることは誰かに聞いてほしいと思うものです。学問はこんなにも面白かったのか！未来はこんなにも拓かれているのか！と感じる読者は多いに違いない。みなさんも日ごろの疑問やちょっと興味をそそる話を聞いてみてください！地球学とは人間社会にとっても役に立つのです。

“Les metamorphoses de pacte diabolique dans l'œuvre de Balzac”
村田 京子著

近代社会における「悪魔」とは？

「悪魔との契約」は何を意味するのであろうか？もはや「悪魔」という超自然的な存在が信じられなくなった時代において、「悪魔」がどのような形で捉えられているのかを、「近代小説の祖」バルザックの作品の中で探ってみた仏語の意欲作。日仏同時発売。



著者は語る

“Les metamorphoses de pacte diabolique dans l'œuvre de Balzac”
大阪女子大学人文社会学部助教授 村田 京子



本書は、「近代小説の祖」と謳われるバルザックの作品に現れる「悪魔との契約」のテーマに注目し、その変遷を辿ったものである。19世紀のヨーロッパにおいて、ゲーテの『ファウスト』を初め、多くの文学作品（幻想文学）がこのテーマを扱ってきた。超自然的な存在が否定された合理主義の時代になぜこのテーマが流行したのであろうか？その答えとしては、逆説的ながら、理性の時代であるが故に「悪魔」という表象が文学に現れたと言える。即ち、それまで信じられていた奇跡が迷信として退けられるようになったからこそ、不合理な出来事が生じた時に人々が受ける衝撃は大きく、不安は増す。こうした未知なものへの不安をいち早く捉えて言葉で表そうとしたのが文学なのだ。

本書第一部では、「幻想文学」のジャンルに入るバルザック初期の作品を取り上げている。そこではもはや従来の「悪魔との契約」（現世の富や知識欲の充足と引き換えに来世の魂を悪魔に売る）は成り立たず、現世の快楽と引き換えるのはこの世の命（寿命）である。その結果、短いが激しい情熱的な生を生きるか、機械的な生活をして長生きするか、二者択一を迫られ、「悪魔との契約」は近代

の欲望哲学の表徴となる。『和解したメルモス』では、悪魔の超自然的な力も、株式取引所で需要・供給の法則に従って売られ、その力を失っていく。「サタンの最後」と言えるが、その代わりに、別な形で悪魔的存在が描かれることとなる。本書第二部では、現実的な空間における「悪魔」、「悪魔との契約」を考察している。『ゴリオ爺さん』に登場するヴォートランを初めとする「悪魔的人物」は全て、社会から疎外された存在で、社会の周縁から社会征服を図ろうとする時に体制側から見れば、「悪魔的」に映るのだ。商業小説『ゼザール・ピロトー』では、古い伝統的な価値観を擁する主人公から見れば、台頭し始めた資本主義的価値観の持ち主は「悪魔的」である。『結婚契約』や『従妹ベツ』では、家父長的な社会に異議申し立てを行う女性が「悪魔的」と捉えられている。このように、古い価値観と新しい価値観の移行期にあって、既存の秩序、思想体系を脅かす存在が「悪魔」と捉えられている。こうした「悪魔」、「悪魔との契約」のテーマはバルザックの時代だけではなく、政治的・社会的・経済的にも変動期にある現代にもあてはまる問題を提起していると言える。

謹賀新年 学会、大会業務のご用命はW. WORKSまで!!

W. WORKSは、昨年11月に大阪府第3回フロンティア賞創業奨励部門特別賞を受賞いたしました。これもひとえに皆様からの暖かい励ましのもと精進した結果と喜んでおります。本年は、学会業務拡大を目標に頑張っていきたいと思っております。学会業務、大会業務に関すること、何でもお引き受けいたします。きめ細かなサービスが身の上のW. WORKS。御用の方は是非ご一報を。お待ちしております！

有限会社ダブルワークス代表取締役 難波美都里

【業務内容】

- ▼大学業務受託
- ▼学会運営事務代行
- ▼調査研究・企画等の受託
- ▼ホームページ、ポスター、パンフ等作成

■在校生・卒業生支援「お仕事つとワーク」の運営
http://www.w-works.jp/oshigotonet/



〒590-0035 堺市大仙町2-1 大阪女子大学内 電話&FAX 072-222-8244
e-mail: orange@w-works.jp homepage http://www.w-works.jp

『農学から地域環境を考える』
大阪府立大学農学部地域環境科学科
地域環境を考える会 編



21世紀は「環境の世紀」と言われますが、都市生活において食料をどのように確保し、環境を維持し創造していくのか。この視点から農学の役割をわかりやすく解説したのが本書です。動植物の共生や環境の創造の上で、農学が持つ広がりや理解し、農学の新たな魅力を感じさせる1冊です。